

# 研 究 紀 要

第 26 号

|  |                   |    |
|--|-------------------|----|
| 序 文 .....  | 大 上 寛 親           | 1  |
| 毛筆書写は国語科（書写）学習に生かせるか .....                       | 川 津 啓 義           | 3  |
| 社会科学学習を支える情意についての一考察 .....                       | 畑 勉               | 11 |
| —— 卒業直前の意識調査の結果から ——                             |                   |    |
| 中学生の歴史的見方・考え方に関する一考察 .....                       | 山 崎 裕 二           | 19 |
| —— 歴史新聞（社説）の分析を通して ——                            |                   |    |
| 回路実験において、定量的な扱いと定性的な扱いをした時の<br>学習効果の差異について ..... | 西 山 昇             | 27 |
| —— 超低周波発振器を用いた電源回路の指導を通して ——                     |                   |    |
| 刃物に関する指導の試み .....                                | 西 山 昇・高橋 一博       | 37 |
| 男女共学による保育領域の指導に関する研究 .....                       | 久 我 俊 子           | 45 |
| —— 評価に基づく指導の改善 ——                                |                   |    |
| 中学校 週三時間英語を考える .....                             | 田 辺 裕 彌           | 55 |
| —— 話す活動と他領域の活動との関連をはかった実際の授業を通して ——              |                   |    |
| たくましい生活力の育成 .....                                | 加 田 紀 機・足立 克洋     | 69 |
| —— 宿泊学習の実践を通して ——                                | 引 野 喜 久 代・三 島 修 治 |    |
| 保健室経営の理論と実際 .....                                | 藤 田 喜 久 子         | 79 |
| 昭和57・58年度 本校ならびに本校教官の研究活動 .....                  | 研 究 部             | 89 |

昭和 59 年 3 月

島根大学教育学部附属中学校

## 序 文

学校長 大 上 寛 親

物事には普通終わりというものがあるが、なかにはどこまでやってもこれでもう全部終了だという、いわゆる終点のないものもある。その中に研究活動も含まれる。研究という語を広辞苑で引いてみると、「よく調べ考えて真理をきわめること」とある。人間が他の動物と異なっている点を挙げよと言われると、実に様々な答えが出てくる。ことばの有無、感情の有無、知恵の優劣、その他肉体的特徴などがよく挙げられるが、忘れてはならないのに研究心がある。他の動物は本能的に自分のまわりのことを知ろうとするが、これは遺伝的に親から子へ伝わってゆくものであって、真理を探求しようとする人類個有の心と異なるものである。われわれ人間は系統だてて計画的に、人類の生活に影響を与えるものの実体を見きわめようとする。身近かなものから遠くのものへ、具体的なものから抽象的なものへと広がって行く。もちろん、研究の結果、真理だと確信していたことが更に研究してみると真理でなかったり、ある特定の枠組の中でのみ通用するものであったりすることがよくある。このような真理でない結論を導き出した研究は何の価値もないものかという、決してそうではない。大昔から現在に到るまで、多くの先人がいろいろな研究をし、その結果真理だとしたものが、後世になって否定され、修正された例は多い。現在われわれが真理だと思っていることも永遠に否定されない、と断言することはできない。研究で一番大切なことは真理を追求しようとする心であって、真理が得られたかどうかではない。初歩的な調査や、素朴な疑問を解決しようとする努力から、いろいろな面に発展し、多くの真理の獲得につながってゆく。しかも、われわれは自分の世代で行なった研究結果を次の世代に順次伝える手段を持っている。動物でも生まれたときよりも、年を取るにつれていろいろな経験をし

て賢くなってゆくが、残念ながら自分の得た知識を次の世代に伝達する手段を持っていない。代々その子孫は同じことを繰り返しているだけである。それに比べて人間は知識の蓄積が可能である。先人の行なった研究をふまえて、更にその上を行くことができる。一人一人、あるいは一世代一世代で行った研究や得られた結果は微々たるものであっても、やがて蓄積され、発展して大きなものに成長する。

わが校はこの十年来一貫して「学習のダイナミック化」というテーマに学校をあげて取り組んで来た。そして1978年には、それまでの成果を「学習のダイナミック化と形成的評価」という書物にして明治図書から出版した。この全校を挙げての研究と平行して、各教官はそのテーマと同質、あるいは異質の研究を個人的に行なってきた。今ここに発行する研究紀要は、これらの研究を収録したものである。一般的に言って、附属学校に限らず、小中高校の現場の研究紀要には教育実践に関する研究がほとんどである。一方大学が発行する紀要には断然理論的研究が多い。その故かどうかはわからないが、実践的研究と理論的研究を比較したとき、前者を軽視する風潮が現在でも存続しているが、これは非常に残念なことである。特に教育において一番大切なのは教壇であり、生徒との接触であり、実践である。現場を無視した理論は役に立たないばかりでなく、ときには有害ですらあるということをわれわれは銘記しておかなければならない。現場の実情に立脚した理論のみが本当に役に立ち、また逆に現場の実践を通してその理論を評価することができるのである。

ここに発行する研究紀要は、執筆した教官達が現場の実践を通して行なった研究の一端を収録した。先にも述べたように、決して完成したというものではない。真理の一側面、一断面を明らかにしようとしたものである。これを読んで下さる多くの方々の温いご指導とご批判をいただくようお願いものである。

# 昭和57・58年度本校ならびに本校教官の研究活動

## 研 究 部

### I 共同研究

#### 1. 57年度 向上目標の設定とその評価に基づく指導法の改善

—— 計画性・実践力の育成をめざして ——

(昭和57年度 教育研究懇話会研究報告書)

#### 2. 58年度 第27回中学校教育研究発表協議会

(第27回中学校教育研究発表協議会研究報告書)

(1) 研究主題 学習のダイナミック化と形成的評価 —— 実践力の育成をめざして ——

(2) 期 日 昭和58年5月31日(火)・6月1日(木)

(3) 講 演 みずみずしく着実な指導のために 大阪大学助教授 梶田 毅一 先生

(4) 全体発表 研究の歩みと基本構想 研究部長 久我 俊子

(5) 公開授業

|                 |      |             |                        |       |     |                        |                                   |       |
|-----------------|------|-------------|------------------------|-------|-----|------------------------|-----------------------------------|-------|
| 第一日<br>(五月三十一日) | 教科   | 年・組         | 単元または題材                | 授業者   | 教科  | 年・組                    | 単元または題材                           | 授業者   |
|                 | 国語   | 1-3         | 想像豊かに                  | 永島 典男 | 国語  | 2-2                    | 開かれた心                             | 川津 啓義 |
|                 | 社会   | 1-1         | アングロアメリカ               | 畑 勉   | 社会  | 2-3                    | 身近な地域「松江」                         | 山崎 裕二 |
|                 | 数学   | 1-2         | 正の数・負の数                | 石田 美吉 | 数学  | 2-1                    | 一次関数                              | 関 総   |
|                 | 音楽   | 1-4         | 白い船                    | 藤原 正博 | 音楽  | 3-4                    | オーソレミオ                            | 田中 義浩 |
|                 | 保体   | 2-3.4<br>男子 | サッカー                   | 塩川 寛  | 保体  | 3-1.2<br>女子            | 体操                                | 宮本 夏子 |
|                 | 英語   | 2-1         | 過去形                    | 田辺 裕弼 | 英語  | 1-3                    | be動詞                              | 平野 謙治 |
|                 |      |             |                        | 特殊    | 全組  | 宿泊学習                   | 加田 紀機<br>足立 克洋<br>引野 喜久代<br>三島 修治 |       |
| 第二日<br>(六月一日)   | 美術   | 2-1         | デザイン「アニメーション」          | 佐藤 収男 | 美術  | デザイン「アニメーション」          | 佐藤 収男                             |       |
|                 | 技・家  | 1-3         | 木材加工Ⅰ(共学)<br>えんぴつ立ての製作 | 西山 昇  | 技・家 | 木材加工Ⅰ(共学)<br>えんぴつ立ての製作 | 西山 昇                              |       |
|                 | 理科   | 2-2         | 細胞と生物のからだ              | 浅野 修二 |     |                        |                                   |       |
|                 | 道徳   | 1-4         | 自主自律                   | 永島 典男 |     |                        |                                   |       |
|                 | 特別活動 | 3-3         | 学級目標をめざして              | 間田 浩彬 |     |                        |                                   |       |

#### (6) 分科会

| 教科   | 研究協議題  | 発表者   | 教科   | 研究協議題                             | 発表者           |
|------|--|-------|------|-----------------------------------|---------------|
| 国語   | 豊かな想像力を育成する文学作品の読みの指導                                  | 間庭 朗  | 特殊   | ひとりひとりの実践力を育てる指導                  | 加田 紀機         |
| 社会   | 社会認識の拡大・深化をはかる<br>ダイナミックな社会科学学習<br>— 追究力の育成をめざして —     | 山崎 裕二 | 理科   | 自然をイメージ豊かにとらえ、意欲的に探究する理科学習        | 浜田 裕三         |
| 数学   | 学習のダイナミック化と形成的評価<br>— 数学的な態度の育成をめざして —                 | 岡 賑悟  | 美術   | 自らの製作手順を見つけ、創造的に表現する能力や態度を養う美術科学習 | 佐藤 収男         |
| 音楽   | 自らの意志による発散を促す自己表現の学習                                   | 田中 義浩 | 技術家庭 | 生活化をめざす技術・家庭科学習                   | 西山 昇<br>久我 俊子 |
| 保健体育 | 見通しを持って自ら取り組む学習をめざして<br>— 集団スポーツ(バスケットボール)における情意面の評価 — | 三成 重雄 | 道徳   | 道徳の実践力の育成 — 自主自律 —                | 岡 賑悟          |
| 英語   | 表現力を育てる英語科学習   | 田辺 裕弼 | 特別活動 | 問題意識の育成                           | 船木 亮          |

## Ⅱ 個人研究

### 1. 研究発表(口頭)

- 久我 俊子 「食物領域の指導と評価」 全附連家庭科研究会中国地区会(於 鳥取大学)  
S 5 8. 8. 2 1
- 久我 俊子 「学習のダイナミック化と形成的評価——実践力の育成をめざして——」  
S 5 8 国立大学学部・附属学校教育研究協議会(於 東京学芸大学)  
S 5 8. 1 0. 1 3
- 畑 勉 「日付変更線の指導はどうしたらよいか」 島根地理学会 (於 県立出雲商業高校) S 5 7. 7. 4
- 間庭 朗 「想像力の育成をはかる文学作品の読みの指導」 全国国語教育研究協議会  
(於 岡山大学附中) S 5 7. 1 0. 2 9
- 加田 紀機 「生活単元学習——宿泊学習——」 島根県特殊教育三瓶集会 (於 大田市  
わらび荘) S 5 7. 8. 2~3
- 加田 紀機・足立 克洋・引野喜久代・三島 修治 「集団の中に入れきれない子どもの指導——情緒的に不安定な子どもの指導・発達の差が著しい子どもの指導——」  
第6回障害児教育を語る会 (於 島根大学教育学部附属小・中学校)  
S 5 8. 2. 1 0
- 加田 紀機・足立 克洋・引野喜久代・三島 修治 「小・中一貫教育をめざして——合同  
学習ではぐくまれるもの——」 第7回障害児教育を語る会 (於 島根大学  
教育学部附属小学校) S 5 9. 2. 1 0
- 西山 昇・高橋 一博 「〔木材加工I〕の実践」 第31次産業教育研究連盟全国大会  
(於 岡山、石山花壇) S 5 7. 8. 8
- 間田 浩彬 「社会認識の拡大・深化をはかる指導と評価」 日本社会科教育研究会  
(於 岡山大学) S 5 8. 1 0. 1 5
- 山崎 裕二 「人間として市民としての自立を促す社会科の授業」 日本社会科教育研究会  
第32回全国研究大会 (於 岡山大学) S 5 8. 1 0. 1 5
- 浜田 裕三 「自然をイメージ豊かにとらえ意欲的に探究する理科学習——天体教材での実践——」 理科教育学会 (於 島根大学) S 5 7. 7

### 2. 掲載論文

- 久我 俊子 「中学校技術・家庭科における評価研究——形成的評価による指導法の改善——」 授業研究 255 (明治図書) S 5 8. 9. 1
- 久我 俊子 「形成的評価を利用した授業の改善——中学校技術・家庭科女子の場合——」 指導と評価 (図書文化) 日本教育評価研究会 S 5 9. 2. 1

- 畑 勉 「出雲平野のくらし」 地域文化研究3巻2号(地域文化研究会) S 5 8. 2
- 間庭 朗 「戦国策『虎の威をかる孤』を指導する」 月刊国語教育(東京法令出版)  
S 5 7. 1 2
- 加田 紀機・足立 克洋・引野喜久代・三島 修治 「実践力(生活力)の育成をめざした  
宿泊学習」 月刊精神薄弱児研究(日本文化科学社) S 5 8. 7
- 西山 昇・高橋 一博 「“杉の丸太を切ってみよう”で始まる木材加工I(男女共学)  
の実践」 K G K ジャーナル № 7 V O L 1 7 (開隆堂) S 5 7. 1 1
- 西山 昇・高橋 一博 「杉丸太の輪切りで技術の原理を」 技術教室 № 3 6 5 (民衆社)  
S 5 7. 1 2
- 田中 義浩 「中学校第3学年音楽科指導事例 歌唱を中心とした自己表現の学習(1)ー」  
教育音楽中・高版4(音楽之友社) S 5 7. 4. 1
- 田中 義浩 「中学校第3学年音楽科指導事例 歌唱を中心とした自己表現の学習(2)ー」  
教育音楽中・高版5(音楽之友社) S 5 7. 5. 1
- 田中 義浩 「中学校第3学年音楽科指導事例 歌唱を中心として自己表現の学習(3)ー」  
教育音楽中・高版6(音楽之友社) S 5 7. 6. 1
- 田中 義浩 「中学校第3学年音楽科指導事例 歌唱を中心とした自己表現の学習(4)ー」  
教育音楽中・高版7(音楽之友社) S 5 7. 7. 1
- 田中 義浩 「中学校第3学年音楽科指導事例 歌唱を中心とした自己表現の学習(5)ー」  
教育音楽中・高版8(音楽之友社) S 5 7. 8. 1
- 田中 義浩 「音楽の学習と6・3・3制 初等教育と音楽の基礎学習」 季刊音楽教  
育研究38(音楽之友社) S 5 9. 1. 1
- 間田 浩彬 「松平不昧と茶の湯」 地域文化研究3巻2号(地域文化研究会) S 5 8. 2
- 山崎 裕二 「江川流域の伝統行事と祭」 地域文化研究3巻2号(地域文化研究会)  
S 5 8. 2
- 三島 修治 「運動に消極的な子の参加意欲を高める指導」 実践障害児教育(学習研究社)  
S 5 8. 9

### 3. 著 書

- 畑 勉 「地理の教材研究」 篠原昭雄編著(明治図書) S 5 7. 9
- 畑 勉 「丸型への挑戦」 木原健太郎・宮崎謹一郎編著(日本教育研究センター)  
S 5 7. 9
- 畑 勉 「島根県大百科事典」 岩成博・内藤正中他編著(山陰中央新報社) S 5 7. 10
- 畑 勉 「社会科地理的分野の達成度評価」 篠原昭雄編著(明治図書) S 5 8. 4
- 間田 浩彬 「中学校地歴総合学習展開事例集」 佐藤照雄編著(東京法令出版) S 5 7. 8
- 間田 浩彬 「公民の教材研究」 星村平和編著(明治図書) S 5 7. 9

## 研 究 部

- 間田 浩彬 「島根県大百科事典」 岩成博・内藤正中他編著（山陰中央新報社）S 57.10  
間田 浩彬 「社会科公民的分野の達成度評価」 柿沼利昭編著（明治図書） S 58. 4  
山崎 裕二 「ぼくらの島根県」 有馬毅一郎編著（ポプラ社） S 57. 4  
山崎 裕二 「島根の歴史資料集」 安部登・門脇俊彦他編著（明治図書） S 57. 4  
山崎 裕二 「島根県大百科事典」 岩成博・内藤正中他編著（山陰中央新報社）S 57.10

### 4. 作 品

- 佐藤 収男 「出雲神楽 S 1 0 0」 第59回春陽展（東京都美術館） S 57. 4. 27  
佐藤 収男 「出雲神楽（三韓）S 1 0 0」 第60回春陽会（東京美術館） S 58. 4. 27  
他、島根洋画展、島根県総合美術展、春陽会山陰グループ展、春陽会大阪展  
それぞれにS 57、S 58各年度出品  
加田 紀機 「リハーサル（油彩）」 島根洋画展（県立博物館） S 57. 7  
加田 紀機 「ラ・マンチャ地方（リキテックス）」 松江市教委（県民会館） S 57.9  
加田 紀機 「リハーサル（油彩）」 島根県教委（県立博物館） S 57. 11  
加田 紀機 「リハーサル（油彩）」 島根県教委（県立博物館） S 58. 11  
田中 義浩 「ブラームス・ドイツレフイエム・バリトンソロ」 島根大学声専合唱団  
（県民会館） S 57. 10. 19  
田中 義浩 「ヘンデル・メサソヤ バスソロ」 島根大学音楽教室（県民会館）  
S 57. 12. 23  
田中 義浩 「ベートーヴェンGdur ミサ バスソロ」 島根大学混声合唱団（県民会館）  
S 59. 1. 11

### 5. そ の 他

- 田中 義浩 「授業における合唱指導法、課外における合唱指導法」 小学校音楽教育実技  
（合唱）講座（於 鳥取県教育センター） S 57. 7. 13  
田中 義浩 「合唱指導について」 境港市小学校 音楽教育研究会（於 境港市中央公  
民館） S 58. 8. 5  
田中 義浩 「生き生きとした歌声」 鳥取県高等学校音楽教育連絡協議会（於 県立由  
良育英高等学校） S 58. 11. 17